

はじめに

子どもたちを取り巻く環境は、40年以上前とは大きく変わってきており、ものの見方や考え方、生活様式も以前とは比べものにならないほど変貌してきています。

例えば、現在の田舎館小学校（旧 西小学校）の建物は、昭和60年に建設されており、既に約35年経過しています。当時としては、この校舎は他に類を見ないほど素晴らしい建築物でしたが、今では、建物の構造自体が情報化社会に追いつくことができないほど老朽化した建物となっています。

小学校の校舎が建設されたおよそ35年前には、学校でコンピュータ機器を学習手段に活用するという考えは、おそらくなかったはずです。ましてや、当時としては、インターネットそのものが日常化されているわけでもなく、それが学校教育に役立つという考えすらもなかったと考えられます。

ところが、今では電話などの通信機器もデジタル化され、携帯電話からスマートフォンやタブレットも当たり前になりました。また、テレビそのものもアナログからデジタルとなり、情報機器等に関する考え方そのものが大きく変わってきています。

言うまでもなく、当時の建築構造は現在の教育環境に追いつくことができず、廊下や天井の中は配線が混雑に張り巡らされています。ましてや、学校放送用機器はすべてアナログであるため、デジタル機器に対応できない状態となっています。

一方、子どもたちや保護者の考え方も40年以上前とは相当異なってきています。物が豊かな環境で育ってきた子どもたちや保護者は、衣食住に対する考え方も大きく変わってきており、衣類に対するおしゃれ感覚も異なっています。また、携帯電話も一人で1台は所持する時代となり、自家用車は一家に数台あるなど、子どもを取り巻く生活環境そのものが大きく変わってきているのです。

当然ながら、その生活環境に慣れている子どもたちは、学校でのトイレでさえも洋式トイレでなければ用を足せないという学校課題も生じています。つまり、生活様式が変わることで、学校教育にも影響が出てくることは否めない事実なのです。

そこで、村としては将来の村の教育をどうすべきか、10年間の展望に立った教育振興計画を作成する必要があると考えました。その基本となるのは、平成30年6月15日に国で閣議決定された「教育振興基本計画」、平成26年3月作成の「青森県教育振興基本計画」、平成23年3月作成の「第5次 田舎館村総合振興計画」と平成28年1月作成の「田舎館村教育大綱」であり、平成28年3月に作成された「まち・ひと・しごと創生 田舎館村長期人口ビジョン」と「田舎館村 まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。そのほかに、平成29年12月に作成された「田舎館村勢要覧」の資料等も参考にするなど、これからの田舎館村における学校教育や社会教育、それに関連する内容等について、先進的な取り組みをより早く実現化させ、既成概念にとらわれることなく、すべての村民にとって良好な教育環境となるように計画するものです。これから田舎館村の新たな教育をつくるためにも、多くの方々の御理解と御支援をよろしくお願いいたします。

平成31年1月

田舎館村教育委員会
教育長 金枝尚明